将軍山会報

発行者
〠567
茨木市西安威2—1—15
追手門学院大学校友会
将軍山会
☎ 0726-43-5421 内線451
編集者
会長 関　謙二

© 1986

10月18日(土)午後

—母校創立20周年記念—

校友のみなさん！再会しましょう！

大学創立20周年に

校友会会長　**関　謙二**
記念事業委員長　**鶴　毅**

昭和41年春に開学した母校も二十年経ちました。校友会では、この機に記念事業を推進することにし、また、記念式典に係わって、大学当局と度たび協議してまいりました。記念式典の日時については、大学当局の希望を受け容れて、見出しのとおり10月18日（土）の午後となりました。校友会が行なう諸事業は、本文中に詳しく記載しています。校友会会員各位のご支援とご協力をお願いします。

1、会員名簿発行

校友会会員名簿（正会員＝卒業生・特別会員＝現教職員と旧教職員）を発行します。発行予定11月。この名簿は予約制です。同封の振込用紙を用いて予約して下さい。予約数だけ印刷する予定です。**締切9月末。**

—お願い—

◎正会員には、7月中に、会員データ確認のための**往復ハガキ**を送付します。**改変・訂正・加筆・削除**の上、正確なデータをご返送下さい。

◎校友会会員名簿に掲載する**広告**をご協力下さい。広告については本会事務局へハガキでお問合せ下さい。

2、大学創立20周年記念 初代学長天野先生顕彰の碑建立

初代学長天野利武先生の胸像を抱いた高さ三米の青銅製の碑を建立することにしています。制作は、日展・日本彫刻会会員（無鑑査）の小杉三郎先生にお願いしました。この碑は今後、校友（正会員・特別会員）のうち逝去された会員合祀の碑として、年に一度、合祀慰霊の会を開くことを計画しております。この碑の建立に当って、ご**寄附**をお願いします。目標額は一千万円。寄附は**一口五千円**。口数制限なし。**期限は来春3月31日**まで。同封の振込用紙に、口数・金額などをご記入の上、お申込み下さいますよう、お願いいたします。除幕式は**10月18日午後3時**頃。

—お願い—

○短信・近況・思い出・想うこと等ご多忙でしょうが　原稿をお寄せ下さい。

○住所変更のときは　ハガキで至急お知らせ下さい。

○ご結婚されるときは　祝電を打ちますのでお知らせ下さい。

○就職された会員は就職先などをお知らせ下さい。

3、記念祝賀会の開催

10月18日午後、大学当局が主催する記念式典・記念講演のあと、本会の行なう記念碑除幕式を終えて、母校体育館・特設会場で開催します。会場内は、昔の風景その他の懐しい写真展示、テレビ放映など盛たくさんの内容を、いま立案中です。

参加会費・会員一名——五千円。会員と同伴者（各一名）・八千円。

—お願い—

◎祝賀会（パーティー）には、より多くの会員のご参集をお願いいたします。残念ながら、人数に制限を加えなければなりません。同封の**振込用紙**に、**必要事項**をご**記入**の上、できるだけ**早く**お申し込み下さい。祝賀会（パーティー）券をご返送いたします。

◎写真・資料の**ご提供**にご協力下さい。どんなものでも結構ですから、お手持ちの写真や資料を、本会事務局あてにお送り下さい。ご返却を希望されるときは、その旨お書き添え下さい。**写真**や**資料**は、**会員名簿**に**掲載**したり、**記念祝賀会**の**会場内**に**展示**しようと思っています。どうかご協力下さるようお願いします。

4、20周年記念シンボル・マーク

母校の**新らしい顔**を考えていますので、ご協力下さい。シンボル・マークの詳細は12ページに掲載。

◇　◇　◇

ご注意を

この頃、会員のお宅に「同窓会ですが」と電話をかけ、勤務先や勤め先の電話番号などを聞き出すということが、よくあるようです。

事務局から、会員の皆様にお電話するときは、「同窓会」の名称は用いません。また、必ず、担当の氏名を申し上げますし、よほどのことがない限り、電話はいたしません。

ご不審の折は事務局まで再度、お問い合せ下さい。

校友会貸借対照表

昭和61年３月31日

（単位：円）

借		方	貸		方
資産の部		(139,909,038)	負債の部		(133,244,718)
Ⅰ.流動資産		(33,666,870)	Ⅰ.流動負債		(27,022,550)
現金		25,438	未払金		52,550
普通預金		15,141,432	前受金		18,020,000
三和銀行茨木西支店	7,207,450		預り金		8,930,000
住友銀行茨木支店	4,154,093		預り金 1.	7,280,000	
大和銀行茨木西支店	3,779,879		預り金 2.	1,650,000	
日本興業銀行大阪支店	10				
定期預金		1,000,000	Ⅱ.特定引当金		(106,242,168)
三和銀行茨木西支店	1,000,000		将軍山会基金		56,242,168
有価証券		17,500,000	将軍山会基金Ⅱ		50,000,000
日本興業銀行大阪支店	17,500,000				
			剰余金の部		(6,664,320)
Ⅱ.その他の固定資産		(106,242,168)	Ⅰ.繰越消費収入超過額		6,664,320
投資等					
将軍山会基金積立					
普通預金		6,242,168			
住友信託銀行高槻支店	6,242,168				
金銭信託		50,000,000			
住友信託銀行高槻支店	50,000,000				
将軍山会基金Ⅱ積立					
貸付信託		50,000,000			
東洋信託銀行茨木支店	50,000,000				
合計		139,909,038	合計		139,909,038

※預り金1.　56年度徴収、57年度山桜会費預り金　　預り金2.　在校生山桜会費預り金

終身会費の全入に向けて

昨年十一月の将軍山祭終了後、本会正副会長、学友会本部役員による懇談会が、学生課立ち合いのもとで開かれました。

本会は在校生に対し、終身会費の納入を授業料と一括徴収することに賛同してもらえないか——という点に主眼を置き、学生の代表組織の学友会に理解と協力を求めました。

学生側とは、過去に学生会館大ホールの使用などで、本会の趣旨が得られていなかったために発生したトラブルもあり、本会としては「今回の会合でなんとか、校友会の存在と内容を十分に理解してもらいたい」という気持ちで臨んだのでした。

学友会がまず説明を求めたものは①校友会の設立趣旨と運営体制②現在の活動内容③今後の運営展望などでした。

例えば、終身会費の使途についての説明、これを求めてきた学友会に対し、関会長は次のように述べました。

「校友会の終身会費はみなさんから『永久にお預りするもの』という認識をしている。すると運営費は？ということですが、これは会費を基金とした預金の利息による果実運営で行っています。みなさんからの終身会費には一切、手をつけずに会を運営していることをご理解いただきたい」

そのため、校友会の活動としては、目立ったものが行えないのが現状。しかし、追手門を卒業してからの住所変更の広報、近況報告を交じえて一言——など盛り込んだ会報の発行をはじめ、会員の慶弔時をお知らせ下さった際には、祝電などを送って会とのコミュニケーションづくりを行っています。それがみなさんが死ぬまで送り届けられることになるのです。

また、卒業生に対して、卒業証書を入れる筒を校友会から毎年、全員に贈っていることを紹介した際、学友会は、そんなこともしていたのか——という表情も見受けられました。

この卒業証書用の筒について、会の中で、授益者負担の原則から会費未納者の扱いについて協議し、「差別待遇はしないが、事業の一端でも知り、気持ちが動いたら終身会費を納入してくれるだろう」という意見に落ちついたことなどを交じえて説明したところ、学友会も『そんな細かな心配りまで』という点で、共感を得られたようでした。

その上で、本会運営の根幹となる終身会費のことに移り、鶴副会長が「今は任意加入となっているが、大学の卒業生の会ということを理解し、全員加入促進に協力いただきたい」と述べ、在学生のうちから校友会を知り、卒業時には入会——になるための協力を要請しました。

これに対し、学友会では「機関を通じて本日の話を伝え、なるべく期待に添えるよう努力します」と、本会に対しての理解の手応えを得られた中で閉会しました。

学友会協力方針を示す

学友会ではこのほど、新役員の活動方針を打ち出し、その中で校友会に対して終身会費納入について、内容紹介の広報を質問窓口などの設置に向けて動き出すことに決まったようです。

まだ、肝心の振込み方法などの詰めは終っていませんが、学友会に校友会を「ようやく理解してもらえた」ことになったといえましょう。

今後、学友会と調整が進められる中で、授業料と同時納入システムが実現される日が迫ってきた——喜ばしいニュースです。

昭和60年度　校友会消費収支決算書

自　昭和60年４月１日
至　昭和61年３月31日

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
（収入の部）			
会費	17,020,000	17,040,000	Δ20,000
受取利息	0	5,634,427	Δ5,634,427
雑収入	0	0	0
収入の部　合計	17,020,000	22,674,427	Δ5,654,427
（支出の部）			
一般経費			
人件費	900,000	657,700	242,300
会報印刷費	700,000	618,500	81,500
その他の印刷費	800,000	651,854	148,146
通信費	2,000,000	1,751,036	248,964
交通費	50,000	5,600	44,400
消耗品費	100,000	92,004	7,996
備品費	0	0	0
会議費	200,000	67,190	132,810
慶弔費	50,000	22,530	27,470
新入会員登録・住所変更等名簿完備費	3,250,000	2,450,000	800,000
総会費	200,000	200,000	0
雑費	0	13,131	Δ13,131
卒業記念品代	100,000	99,500	500
大学祭援助費	100,000	100,000	0
大学祭行事参加費	200,000	108,000	92,000
支部助成金	200,000	500,000	Δ300,000
特別経費			
20周年記念事業委員会会議費	100,000	0	100,000
20周年記念事業準備基金	2,000,000	0	2,000,000
将軍山会基金繰入	5,970,000	1,919,792	4,050,208
将軍山会基金Ⅱ繰入	0	31,000,000	Δ31,000,000
〔予備費〕	100,000	0	100,000
支出の部　合計	17,020,000	40,256,837	Δ23,236,837
当年度消費支出超過額	0	17,582,410	Δ17,582,410
前年度繰越消費収入超過額	24,246,730	24,246,730	0
翌年度繰越消費収入超過額	24,246,730	6,664,320	Δ17,58,2410

昭和61年度　校友会消費収支予算書

自　昭和61年４月１日
至　昭和62年３月31日

（単位：円）

科目	予算額
（収入の部）	
会費	17,000,000
受取利息	0
雑収入	0
収入の部　合計	17,000,000
（支出の部）	
一般経費	
人件費	650,000
会報印刷費	610,000
その他の印刷費	600,000
通信費	1,750,000
交通費	0
消耗品費	0
備品費	0
会議費	0
慶弔費	50,000
新入会員登録・住所変更等名簿完備費	2,450,000
総会費	0
雑費	0
卒業記念品代	100,000
大学祭援助費	100,000
大学祭行事参加費	100,000
支部助成金	0
特別経費	
20周年記念事業準備基金	10,000,000
将軍山会基金繰入	0
将軍山会基金Ⅱ繰入	0
〔予備費〕	590,000
支出の部　合計	17,000,000

監査報告書

私ども監査役は追手門学院大学校友会将軍山会の昭和60年４月１日から昭和61年３月31日までの貸借対照表、消費収支計算書、資金収支計算書について監査した。

この監査にあたり私ども監査役は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠、通常実施すべき監査手続きを実施した。

監査の結果、貸借対照表、消費収支計算書、資金収支計算書は、同窓会規約に従い、校友会の財産及び収支の状況を正しく示しているものと認める。支部助成金についてはその性格上、当然明らかにされるべきであるし、助成金申請時の予算書と照合し得るその年度の決算書等が助成金を受けた団体から提出されるべきものと考えます。

昭和61年６月27日

追手門学院大学校友会将軍山会
監事　森　嘉一
監事　宮本幸治

この部分には会員の住所変更等が掲載されていました。
個人情報の観点から、この縮刷版には掲載しておりません。

訃　報

大村秀夫（昭54心）
58年７月22日死去。ご冥福をお祈りします。

三浦延郎（昭47済）
60年３月28日交通事故により永眠。御冥福をお祈りします。

シンボル・マークの決定に!!

母校創立20周年を機に、校友会は大学当局・学友会・将軍山祭実行委員会と協議してシンボル・マークをつくることになりました。

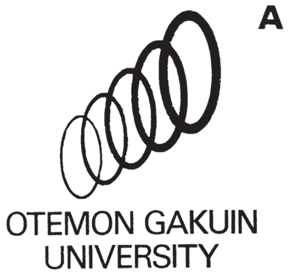
左の図は、それぞれＡ・Ｂ・Ｃ案です。

ＡかＢかＣか、ハガキで、本会の事務局あてに、ご投票下さい。今、在学生の投票を続けていますので、できるだけ早く、ご投票下さい。

シンボル・マークが決まりましたら、Ｔシャツ・トレーナーその他に有効利用する予定です。

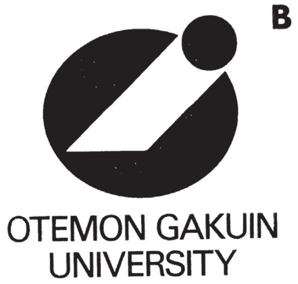
Ａ案――スパイラル状のデザインは、母校のイニシアルを五重に展開させ、五十年の未来に向って確実に前進することを願っています。

A



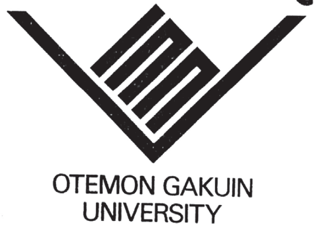
Ｂ案――円はＯを、楕円はＧを、抜いた射光スペースはＵを表わし、母校の基本目標である国際的で豊かな発展を願って、シンプルに表現してみました。

B



Ｃ案――母校名のトップ・キャラクターの追を図案化してみました。卒業後の社会各界での飛躍を夢見て若いシャープな感性を盛りこんだつもりです。

C



◎今年、卒業の新会員へ◎

会報は、勤め先の寮や下宿へは、お送りしないことにしています。すぐ移動されたり転居されることが多いからです。その点をご諒解下さい。

どうしても送ってほしい方は、その旨をハガキで、本会事務局まで、お申し込み下さい。

編集後記

校友会は、今年の卒業生名簿の入力・校正・点検と大忙しのあとすぐ5月からは、創立20周年記念事業に取り組むため、度たび、常任理事会や理事会を開き、また、大学当局や学友会とも協議を重ねてきました。

時には雨の日曜日に、時には夜遅くまで、どうすれば創立20周年を祝う事業をすすめることができるかと役員同志が懸命に、討議し、協力し合ってきました。

だが、会報を早く発行したいと思いながら、民主的にものごとを運ぶのは、時間がかかります。

とうとう、７月に入ってしまいました。

会報の原稿執筆や編集も、なかなか思うようにいかず、遂には顧問の佐藤先生や事務局でアルバイトをしてくれている藤本博美さんに手伝ってもらうことになりました。

10月18日（土）近づくにつれてますます、会合も増え、会員の皆さんにお送りする会報その他が増えてくると思います。

どうか、ご協力下さいますよう。

できれば、次号には、会員の皆さんからの『学生時代の想い出』の記で一ぱいにしたいと思っています。

ぜひ、ご投稿下さい。

原稿は、本会事務局あてに、８月の終りまでにお送り下さい。その際封筒の表に『想い出』原稿在中と赤で書いて下さい。　（Ｓ・新二）

セピア色の思い出を探しに……10・18母校へ

昭和60年度　校友会資金収支決算書

自　昭和60年４月１日
至　昭和61年３月31日

（単位：円）

科　　　目	予　算　額	決　算　額	差　　異
（収入の部）			
会費収入	17,020,000	17,040,000	Δ20,000
受取利息収入	0	5,634,427	Δ5,634,427
雑収入	0	0	0
有価証券売却収入	0	15,000,000	Δ15,000,000
前受金収入	18,000,000	18,020,000	Δ20,000
前期末未収入金収入	319,849	319,849	0
資金収入調整勘定	Δ19,200,000	Δ19,200,000	0
前期末前受金	(Δ19,200,000)	(Δ19,200,000)	(　　0)
前期繰越支払資金	37,449,531	37,449,531	0
収入の部合計	53,589,380	74,263,807	Δ20,674,427
（支出の部）			
一般経費支出			
人件費支出	900,000	657,700	242,300
会報印刷費支出	700,000	618,500	81,500
その他の印刷費支出	800,000	651,854	148,146
通信費支出	2,000,000	1,751,036	248,964
交通費支出	50,000	5,600	44,400
消耗品費支出	100,000	92,004	7,996
備品費支出	0	0	0
会議費支出	200,000	67,190	132,810
慶弔費支出	50,000	22,530	27,470
新入会員登録・住所変更等名簿完備費支出	3,250,000	2,450,000	800,000
総会費支出	200,000	200,000	0
雑費支出	0	13,131	Δ13,131
卒業記念品代支出	100,000	99,500	500
大学祭援助費支出	100,000	100,000	0
大学祭行事参加費支出	200,000	108,000	92,000
支部助成金支出	200,000	500,000	Δ300,000
特別経費支出			
20周年記念事業委員会会議費支出	100,000	0	100,000
有価証券購入支出	0	7,500,000	Δ7,500,000
特定資産繰込支出	7,970,000	32,919,792	Δ24,949,792
前期末未払金支払支出	1,392,650	1,392,650	0
預り金支払支出	9,000,000	9,000,000	0
〔予備費〕	100,000	0	100,000
資金支出調整勘定	0	Δ52,550	52,550
期末未払金	(　　0)	(　Δ52,550)	(　52,550)
次期繰越支払資金	26,176,730	16,166,870	10,009,860
支出の部合計	53,589,380	74,263,807	Δ20,674,427

ページを繰るとなつかしい友の顔が――名簿予約はお早めに。

もっと支部設立を

先日、文化会、無所属の方々にＯＢ連合会などの設立を呼びかけましたところ、徐々に「地域支部を作りたいのですが」という声が出てきました。現時点ではコンピューター出力の関係で、少し待っていただいている件もありますが、もっともっと声をあげてほしいと思います。

別に仲間は要らないじゃないですか、単独に参加していただける人が集まればいい訳です。個別にでも、校友会事務局に申し込んで来て下さい。この方々を集約し、連絡のとれる道ぐらいはお手伝いします。

また、一期生、二期生の方が入っていなければ――などの心配よりも先にみなさん方が組織を作って「入りましょう」と声をかけていって下さい。支部設立、ＯＢ連合の設立方法は以前に紹介したので改めて書きませんが、みなさんが考えるよりも簡単にできるのです。

誰かに声をかけてから――と、ためらっているより、「まず事務局に電話してみよう」と〇七二六(四三)五四二一番のダイヤルを廻し、『校友会事務局をお願いします』といって下さい。必ず、未知の誰かと出会える場が拓けてくるはず。

正式組織として認められれば、会合やイベントに対し、校友会では積極的に協力します。追手門を軸とした集りに、みなさんも参加してみませんか。新しい友に、かつての友人にめぐり遭ってみませんか。

将軍山会報

発行者
〒567
茨木市西安威2—1—15
追手門学院大学校友会
☎ 0726-43-5421 内線451
編集者
会長　関　謙二
© 1986

INFORMATION
the 20th ANNIVERSARY

10/18 Sat

時は流れ、今ここに集えば
記念碑除幕式 3:00

思い出がよみがえる….
記念祝賀パーティー 4:00

今回が最終のご案内

校友会会長　関　謙二
実行委員長　鶴　毅

私ども卒業生・正会員総数は、本年八月末で一四、一七〇名。来る十月十八日（土）午後四時から、母校の体育館で開かれる二十周年記念祝賀会に、参加できる校友会員は四〇〇名。

当日、現在の教職員をはじめ、旧教職員五十二名の方々に招待状が送られます。それに在学生三〇〇名が参加。パーティーの総員は一、〇〇〇名。

祝賀パーティーの内容は、前回お送りした多色刷りのご案内どおり。

お土産に「二十年誌」や「別注の能率手帳」など。飲み放題・喰べ放題で、ゆっくりと楽しんでいただけます。

祝賀会（パーティー）のお申込みは、同封の振込用紙でお願いします。お申込みの無い会員が、当日、ご来会下さっても、ご入場をお断りいたします。

今回のご案内が最終コールです。

○　○　○

祝賀会（パーティー）参加をお申込み下さった方には、会員券をお送りいたします。当日、その会員券を、お忘れなく、ご持参下さい。

左より、校友会長の関謙二君、故天野先生の奥様、制作者小杉三朗氏委員長の鶴毅君、副会長大橋陽一君

当日の受付

混雑を避けるため、当日午後二時半頃より、母校体育館入口で、受付をはじめます。

1、お送りした会員券（申込者のみ）をお示し下さい。

2、当日のプログラム・リボン・お土産引換え券を、お受け取り下さい。

記念碑寄附金額と寄附者ご芳名

——敬称略——

十万円（二十口）
東　國徳・佐藤　良和
五万円（十口）　関　謙二
三万円（六口）　鶴　毅
中村　秀・内田　憲博
二万五千円（五口）　口村　一郎
平下　欣一
一万円（二口）
東　徳久・嘉納　泉
小寺　新吉・佐藤　新二
斎藤　昭・菅澤　和子
名和　俊彦・浜守　義久
原田　章子・藤本　長利
五千円（一口）
荒川　典子・荒木　史一
伊勢　浩二・井上　正史
猪上　勇・池田　拓司
岡田　能敬・上村　昌志
川田　英明・川本　一美
菊地　千代・田中　朋之
田辺　利行・寺田　憲正
中山　明子・長岡　孝子
濱田　祥子・久田　恭子

▽以上2頁下段へ△

学生時代の想い出

▽締切りは8月末△

氏名（　　　　　　　　）　年 文 経 卒

No. ……………

（長い場合は一行16字で書き足して下さい）

青銅製の記念碑

――鋳造初まる――

10月18日（土）母校創立20周年記念祝賀会の開催に先立って、記念碑の除幕式を行います。当日、多くの会員諸兄姉のご参集をお願いします。その記念碑についてお知らせいたします。

胸像を見つめておられる故天野先生の奥様

□ 対　面

去る9月7日、初代学長天野先生の奥様と共に、本会会長・関謙二君実行委員長・鶴毅君、副会長・大橋陽一君らは、記念碑の製作者・小杉三朗先生のアトリエを訪問。

故・天野先生の胸像（粘土像）と対面された奥様は（写真）「優しい表情ですね」と涙ぐんでおられました。そのまま、しばらくは無言で、天野先生のお姿を、じっと見つめていらっしゃいました。

□ 碑　文

碑文は、宮本正仁君（文学部英米語学文学科一期生、芥川賞・大宰治賞受賞の作家・宮本輝氏）にお願いしました。

宮本輝氏は、原稿執筆の多忙の中去る9月22日午前2時に、次のような碑文を書き上げて下さいました。

ともどもに
同じ青春の
丘に駆けし者
また再び
この丘に帰りて
集い合いぬ
われら再び生を受け
気品ある闘志秘めて
駆けゆかん
　輝

碑文は、記念碑の前面、故天野先生の胸像の下に入ります。

特に、宮本輝氏は、この碑文をしたためるのに際して、作家・水上勉氏作製の竹で作った紙を使用して書いて下さいました。

碑文の原本は、宮本輝氏の落款をもらったあと、表装し、保存することにしています。

□ 碑　銘

記念碑の背面には、次のような、碑銘が入ります。

初代学長天野利武先生顕彰
大学創立二十周年記念
校友合祀之碑
制作　小杉三朗
碑文　宮本　輝
昭和六十一年十月十八日
建碑追手門学院大学校友会

碑銘は、書道家・田中桜秀先生に書いていただきました。

□ 合　祀

本会の正会員は一四、一七〇名ですが、早や他界された会員もおられます。

校友会では、物故会員のご氏名と没年月日を記帳していくことにしています。

また、宮本輝氏の碑文にもあるように「同じ青春の／丘に駆けし者」を、教え導き下さった諸先生はじめ学生生活を支えて下さった職員の方など、本会特別会員の方がたや物故された特別会員のご遺族からの、ご希望があれば、特別会員物故者記名帳にご記入させていただくことにしています。

そして、できれば、年に一度は、物故正会員・特別会員の合祀を行いその慰霊の会を持ちたいと考えています。

□ 募　金

本会会報の前号・20周年記念行事ご案内（多色彩）と、この会報に同封して、振込用紙をお送りしています。

どうか、記念碑募金にご協力下さいますよう、お願いいたします。

なお、既にご寄附下さいました各位に、再び振込用紙をお送りしないようにいたすべきですが、一万三千余通の中から、ご寄附下さった方の封筒を抜きとり、振込用紙を入れないように作業をすることは、大変ですので、その作業をしていません。

重ねてお送りしていますが、このことについては、ご勘弁下さい。

。　。　。

ご寄附下さった方々のご芳名と口数については、本会会報に掲載させていただきました。続けて、次号の会報にも掲載させていただきますので、ご了解下さい。

記念碑寄附金額と寄附者ご芳名

――敬称略――

（つづき）

五千円（一口）
深川　秀雄・藤本　恭子
三宅　晶代・三宅　泰
溝口　明・室谷　信一
望月　優・安本　幸義
山崎　尚史・横部　雅昭

以上九月二五日現在

第20回将軍山祭の御案内

テーマ　「Twenty flight Presents」
将軍山祭　やめられまへんなァ

10月30日（木）
○デモンストレーション　12：30～14：30
場　所　国鉄および阪急茨木駅周辺地域
目　的　本学における大学祭の情宣活動
内　容　吹奏楽団による演奏

10月31日（金）
○体育祭　9：30～16：00
場　所　グランド

11月1日（土）
○デモンストレーション　11：30～12：30
場　所　本学周辺地域
目　的　本学における大学祭の情宣活動
内　容　吹奏楽団による演奏パレード
○第4回校友会将軍山会杯ソフトボール大会
日　時　11月1・2日（予備日4日）　9：30～15：00
場　所　本学グランド
参加者　学生、職員、OB、茨木市民
内　容　親睦・賞品あり
○映画上映　9：30～15：00
主　催　映画研究会シネマクリエーター
場　所　学生会館大ホール
内　容　「仁義なき戦い」
○学長杯テニストーナメント
日　時　11月1・2・3日　9：30～18：00
主　催　硬式庭球部
場　所　本学テニスコート
○体育会バザー
日　時　11月1・2・3日　10：00～17：00
主　催　体育会本部
○文化会野菜売り
日　時　11月1・2・3日　10：00～17：00
主　催　文化会本部
○素人拳法大会　10：00～14：00
主　催　日本拳法部
場　所　体育館道場
○ゲスト
開　場　14：30　開演　15：00
場　所　本学体育館
出演者　聖飢魔Ⅱ
入場料　前売　千円
当日　千二百円
○文化フェスティバル　17：00～19：00
主　催　文化フェスティバル実行委員会
場　所　第1駐車場
内　容　盆踊り

11月2日（日）
○シンポジウム　10：00～14：00
主　催　無所属委員会
場　所　学生会館大ホール
○英語劇　14：00～17：30
主　催　ESS英語研究部
場　所　学生会館大ホール
内　容　「王子とこじき」
○文化フェスティバル
11月2日　13：00～15：00
11月3日　14：00～15：00
主　催　フェスティバル実行委員会
場　所　野外ステージ
内　容　2日　Miss文化フェス
3日　ザ・トミクジ
○素人柔道大会　12：30～18：00
主　催　柔道部
場　所　本学体育館第2体育館
○ゲスト
開　場　17：30　開演　18：00
場　所　本学体育館
出演者　バブル・ガム・ブラザーズ
入場料　前売　千円
当日　千二百円

11月3日（月）
○第12回演武祭　10：00～14：00
場　所　学生会館大ホール
○放送局祭　14：00～18：00
場　所　学生会館大ホール
主　催　報道会放送局
○ダンスパーティ　16：00～19：30
主　催　軽音楽部
場　所　本学体育館
○B・H・P
（Beautiful・Holiday・Plan）
主　催　社会福祉同好会・レクリエーション研究会・児童研究同好会
場　所　本学キャンパス及びグランド
目　的　茨木市内の3ケ所の児童養護施設の子供達を将軍山祭に招待して、大学祭を1日楽しんでもらう。

11月4日（火）
○後夜祭　16：00～17：30
場　所　グランド

学生時代の思い出

永井秀明（昭49営）

私の学生時代の想い出＝倶楽部活動です。当時アメリカ民謡研究部に所属し男性5人グループで活動して居りました。ちなみにバンド名を〃マインズ〃と申しました。他校学祭の出演から始ってラジオ局、京阪神の各ホール、イベント、コンテスト等幅広く音楽活動をさせて戴きましたので当時のフォーク仲間にはちょっと知られたバンドだったと思います。昭和45年入学と同時に入部し、49年1月6日の解散コンサートを最後に卒業する迄思う存分活動させてもらいました。そう言う意味では本当に倶楽部馬鹿だったんでしょう。その倶楽部馬鹿達の溜り場がⅡC―1教室の裏部屋でした。今でも部室として拝借しているのでしょうか。当時、片時も手放さなかったギターも今では子供のおもちゃと一緒に部屋の片隅に埋もれています。社会に出て早12年がたち、おじさん族の仲間入りした私ですが倶楽部でお世話になった事が今迄何かと役に立って居ります。最後にこの文筆を読まれたアメリカ民謡研究部出身の諸氏、これから先も当時の楽しい想い出をこやしにして頑張って行こうではありませんか。

359　埼玉県所沢市若狭1―2938―2
日本フィルコン狭山住宅B―104

* * *

『学生時代の思い出』を、どしどしお寄せ下さい。

○　一行十六字でお書き下さい。
○　タイトルをつけて下さい。

校友会事務局より

◎**会員各位の住所変更について**

毎年三月末と九月末に、それまでにお連絡下さった分をまとめて、コンピューター処理します。

次に、打ち出されてきたものをチェックし校正します。この作業は二回繰返して行います。

この間、三月末の分は、新卒会員の分も含めて、約二カ月の作業日程が必要で、五月末に会報を発送する際、何とか間に合うように作業を進めています。

九月末の分は、割合に訂正数が少ないのですが、大学祭（将軍山祭）の案内などを会報でお知らせするのには、間に合わない時があります。しかし、訂正件数の少ない時は、宛名を手書きして再度お送りしています。

今年の場合、会員名簿を初めて作成するので、往復はがきでデーター確認をしましたところ、**四千通以上の訂正件数**がありました。

これは、コンピューター処理をするにしても、校正をするにしても、大変な仕事量であり時間もかかります。

ところが、創立二十周年記念事業を進めるために、会報やご案内などを、何度も発送しなければなりません。

みすみす、住所不明・配達不能で返送されてくることが解っていても、コンピューター処理では、訂正が終らないと、前のままで宛名ラベルが打ち出され、発送されてしまいます。

事務局は、今、全力を傾けて、精度の高い会員名簿ができるよう頑張っています。

そういう次第で「住所変更を届けたのに、変更していない。訂正していない」とのお叱りのお電話をいただきますが、データー確認の往復はがきや、官制はがきで、住所その他の変更を知らせて下さったものは、確実に変更いたします。どうか、しばらくお待ち下さい。

◎**会報その他の発送について**

会社の寮や下宿先には、お送りしません。その場合は、親元か留守宅へお送りします。

これは、今までに何度も失敗し、住所不明になった例が多いからです。

いつの間にか、他へ移っておられたり、会社を辞めておられたりして、尋ねても判らなくなってしまうからです。

外国に住んでおられる会員に対しても、留守宅か親元へお送りしています。

以上の点については、どうぞよろしく。

◎**住所その他の変更、訂正は**

ぜひ、官制はがきでお願いします。また、会報に原簿カードの写しを刷り込んでいるときは、それをお使い下さい。より正確ですから。

移転されたり、町名番地などが変ったり、ご結婚で改姓されたり、そんな場合は、直ぐにお知らせ下さい。

会員からのご連絡やお届けがないと、変更修正などができませんので、その点は、ぜひ、ご協力下さい。

○○○○○○会員名簿の発行

○現在、四千件以上の訂正に、最大限の努力をしています。

○さらに、各クラブのＯＢ名簿を参考にして、訂正しています。

○今、コンピューターに打ち込み中です。

○続いて、校正・再校正の後、版下ができてきます。

○それを点検して、誤りがあれば訂正します。

○特別会員の原稿整理・旧教職員の分が大変なのです。

○整理が終ると、コンピューター入力。

○全体に目を通し

1、発刊の辞　2、校友会略史　3、校友会会則・内規等　4、歴史的な写真や創立二十周年記念事業の記録写真　5、編集方針や記録・後記などの頁を作成します。

○地域・職域の索引を作ります。

○この間に、広告掲載の依頼と版下の収集。

○全部の準備が整えば、本文の印刷開始。

○表紙の図案・使用する紙など決定。

○各印刷が終れば、製本・発送の予定です。

○印刷冊数は、予約数と保存二冊・大学内の学部・図書館・その他の部課への寄贈分、以上限定発行です。**発行後は、一冊の余裕もありません。**必らず、**ご予約下さい**（振込用紙を使ってお願いします）予約金一万円。十月末日まで、予約できます。

○振込用紙は、全会員に、今回を含めて三回、お送りしました。一度申込しこまれた場合でも振込用紙を抜き取ることが容易にできませんので、再三お送りしていますのでご諒解下さい。

振込用紙の一片は、本会事務局に届けられます。一枚一枚貼付して保存していますから、ご安心下さい。

○振込みを済まされた会員の方に、振込用紙の一片が残ります。大切に保存して下さい。

○会員名簿の発行が、少し遅れるかも知れません。その節は、十一月末までにその旨を必らずご連絡いたします。

大学だより

二十周年について

学長　**奥田順一**

卒業生の皆さん、社会の各方面でお元気にご活躍のことと存じます。

今年は、本大学の開学二十年という記念すべき年に当りますので、ささやかですが、記念の行事を学内で行ないます。

大学の創設後間もないころ、社会に出られた皆さんが、ほとんど母校の名前が知られていなかったために大変な苦労を味わわれたと、しばしば耳にしました。

いま、やっと成人に達した大学と言うべきでしょうが、この間、教育や施設の両面で充実を続け、ある程度、社会に認知されるようになって来ました。われわれは、初期の卒業生の悲哀が早く昔の夢物語りとなるよう努力したいと思います。

あらためて言うほどのことでもありませんが、大学に在籍する者は、優れた教育・研究を通して立派な卒業生を社会に送り出す責任を荷っていますが、大学にとっても在学生にとっても、すでに社会で活動されている卒業生先輩の動向は、大いなる無言の励みであり、社会的広がりからみて、大学と卒業生とは車の両輪の関係にあると、私は考えています。

昭和六十三年には、大学を含む全学院の百周年を迎えますので、今回は大学らしいものをと想定しましたが、さらに、右に述べた趣旨からして、卒業生の皆さんも参加し易い形とするために、大学校友会（将軍山会）の役員の方々と話し合った結果、母校の現況を直接見ていただくことがもっとも実りあるのではないかという結論に達しました。

来る十月十八日は、午前中は、学校も平常のように動いておりますので、パーティーの前にこられて、校内を回ってみて下さい。

われわれ教職員・在学生は卒業生の皆さんとの楽しい再会と同時に、皆さんから生の率直な社会の息吹を伝えていただくことを希望し、多数の来学を心から歓迎します。

二十周年について

経済学部長　**遠山嘉博**

昭和四十一年四月に本学がスタートしてから、早や二十年余の歳月が過ぎ去り、ここにめでたく「二十周年」を迎えることとなりました。本学創立メンバーの一人として、大学とともにこの二十年を歩んできた者として、まことに感慨無量であります。

開学当初は本学の規模は小さく、教員、職員、学生すべてが少人数でありましたから、一同家族的な雰囲気の中で過ごしました。施設は決して十分ではなく、むしろ不備だらけでとても貧しく、精神的にも物質的にも豊かな環境とはいいがたい状態にありました、全員がパイオニア精神に燃えて力を尽くしたものでした。幸いなことに、この二十年間、本学の規模は着実に拡大していき、また入試の難化とともに、学生の質も大幅に向上し（もちろん、当初から立派な学生も多くいましたが）、世評も着実に高まってきました。

こうした本学全体の発展、充実の方向が定着した中で、「二十周年」を迎えることができるのは、本学に職を奉ずる者として、このうえなく嬉しいことであります。これもひとえに、教職員の方々の学生に対する教育や指導の熱意のあらわれであり、また、それによくこたえた学生諸君の四年間における成長、および卒業後の立派な活躍の結果であると思います。

ただ、われわれ追手門学院大学を構成するメンバーの一人ひとりは、現在の状態に甘んじたり、自己満足してしまうのではなく、過去の発展から教訓を学びとりながら、来たるべき十年、二十年、そして五十年、一〇〇年の長期を見据え、よりいっそうの量的、質的発展を期すべく、謙虚な反省のうえに立って、努力を尽くさねばならないと考えます。

「二十周年」を教職員、卒業生、在校生一同でともに祝い、喜びを分かち合うとともに、追手門学院大学のさらなる発展、充実へ向けて、心を引き締めたいものと思います。

二十周年にあたって

文学部長　**小花和昭介**

卒業生の皆さん、皆さんの母校が創立二十周年を迎えました。特に初期の頃の人は、未だ一号館と二号館の半分しかなくて、通学路の確保さえあやふやだった草創の頃を懐かしく想い起されることでしょう。

二十周年といえば、個人ならば成人式を迎えるわけですから、やはり大きな節目であります。近年もてはやされている心理学用語で言うならば、まさに自我同一性の確立されるべきときであります。個人ならぬ大学の自我同一性は、それこそ百年も二百年もかかって作られるものでしょうから、二十年では未だ赤ん坊の大学かも知れません。でも、もうそろそろ追大の顔が明確に描かれることが期待されています。

しかし、大学の学風とか学生気質とかいったものは、そう意図的に作ろうとして作れるものではありますまい。大学の自我同一性確立の過程は、一方では、追大の特徴を築き上げようと努力しながら、また一方では、追大の特徴は何なのかを探し求める作業でありましょう。いま私達は、二十周年にあたって、追大の顔を作りつつ探し、探しつつ作って来た努力の跡を振りかえっているのです。

ところで、卒業生の皆さんの活躍も追大の顔の大切な一面です。社会は、卒業生を通して大学を見ています。追大に誰が入ったかということも問題でしょうが、追大から誰が出て来たかということの方が、はるかに重大な問題なのです。

二十年の間に、いろいろな卒業生が出ました。ずい分と個性的な活動をしている有名人も居ますし、一期生はもう四十才近くになっているのですから、それぞれの領域で中堅としての活躍をしているわけです。必らずしも世間に目立った人物にならなくても、各自の持ち場で静かに光り輝いている卒業生の顔は、それ自体が追大の美しい顔だと思います。

どうぞ、それぞれの顔を大切にして下さい。それによって、母校も育つのです。皆さんが輝くだけ、追手門が輝くのです。そして、二十年の歴史をふまえて飛翔しようとする母校に、たまには、その美しい顔を見せに来て下さい。

将軍山会報

発行者
〒567
茨木市西安威2―1―15
追手門学院大学校友会
☎ 0726-43-5421 内線451
編集者
会長　関　謙二

© 1986

よいお年を
お迎え下さい

記念碑、厳（おごそ）かに除幕

〃追大の成人式〃大学創立二十周年記念式典が十月十八日、盛大に行われました。校友会では、初代学長・天野利武先生の胸像を抱いた記念碑の除幕、祝賀パーティーの開催など、卒業生自らの企画演出した内容で、大学の成人式を祝いました。

記念祝賀会に先立ち、追大グランドが一望できる「松頼庵」横の築山に建立された故天野利武先生の胸像をいだく顕彰の記念碑の除幕式が、行われました。REUNIONの象徴として、ここにベールが下ろされました。

記念碑は大学主催の記念講演終了後、来賓、卒業生、そして、大学関係者が見守る中、天野先生の奥様、関謙二・本会会長らが綱を引いて除幕しました。彫刻家の小杉三朗先生が真心込めて作成した高さ三米、青銅色も鮮かな像が姿を現した瞬間、「おお」と参加者から感嘆の声が。

ありし日の温厚な天野先生の表情がみごとに再現されており、いまにもわれわれに何かを語りかけて下さるような出来栄え。

除幕ののち、像と長い沈黙で対話をする人、天野先生と記念撮影をする人などが後をたたず、夕陽が像を美しく照らす中で、各人がたたずんでいました。

華やかなパーティー

記念祝賀パーティー（於体育館特設会場）は、進行役の岡本昭子さんの宣言で開幕。追大・吹奏楽団による校歌吹奏ののち、鶴毅・記念事業実行委員長、行田一典・追手門学院理事長らがあいさつ、東國徳・元理事長の乾杯の大発声を皮切りに始まりました。

会場は入口に、開学時と現在を比べる大学周辺の航空写真の大パネルが展示され、それを見ながらアーチをくぐると、二十年間に追大を巣立った社会人たち、恩師の顔があふれ、周囲には、二十年の時を刻んだ写真パネルが所狭しと掲げられ、四十一年当時のポピュラーソングが、雰囲気を盛り上げていました。

和気あいあいとした中で、「久しぶり、おまえものすごく老けたナァ」と旧友との再会を喜ぶ光景があちこちでみられました。スライド映写による「追大二十年の歩み」を観賞したり、ゼミ担当教授と卒業生の再会コーナー、クラブOBインタビューコーナーなど、盛りだくさんの内容がつねに大爆笑の渦巻く中で進んでいきました。

会場は二十年の歴史を祝い、今後ますます追大が発展するように――願いを込めた余韻を残し、別れをおしみながら閉幕しました。

二十年史を希望者に限定頒布

追手門学院大学創立二十年史を先着三千名の方に限り、実費で限定頒布します。ご希望の方は別添申込書に必要事項を記入の上、下記までお送り下さい。申込期限は昭和六十二年二月末日、送料共一部千五百円（郵便為替）。尚、記年史の発送は三月中頃の予定。

送り先　大阪府茨木市西安威二―一―一五　〒五六七
追手門学院大学　庶務課

祭りのあとで

岡本昭子

10月18日(土)・記念碑除幕式。秋晴れのさわやかな風を受けて、天野先生は、穏やかな微笑をたたえていらっしゃるようでした。天野先生とお目にかかったことはありませんでしたが、奥様のお話しを伺いながら、先生の暖く優しいお人柄を偲んでおりました。式典後も多くの方々が記念碑の前に佇み、写真を撮っていらした光景が、とても印象的でした。

像を制作するにあたり、設置日の前日まで鋳造所に泊まり込みで完成して下さった小杉三朗先生。温もりのある文字で、碑文をしたためて下さった一期生の宮本さん。そして、像の内にこめられた関係者それぞれの熱い思い。あらためて自分の胸に刻み込みました。

それぞれの思いがあるように、大学の中でもいろいろな活動があり、それらをひとつにまとめあげていくことはとても大変なことだと思います。ですが、個々の深いつながり、大学に対する思いは〃同じ〃ではないでしょうか。若い時代に悩み、傷つきながらも何年間を共に生きた場

（次頁の四段目へ）

Party For The 20th Anniversary

Let's enjoy it together!

SINCE 1966
OTEMON GAKUIN UNIVERSITY

追手門学院大学

創立20周年記念パーティ

10/18（土）
午後4時～6時

会場　追手門学院大学体育館
主催　追手門学院大学
　　　追手門学院大学校友会

昭和62年度〜昭和63年度

補充役員候補者推薦

お願い

去る十一月十五日、大阪市北区の「長江」で、さきごろ行われた追手門学院大学二十周年の校友会記念事業の報告と反省などを話し合うための校友会理事会が開かれました。席上、これまでの運営と記念事業の進行経過を顧みて、「校友会の運営に協力してくれる人材をもっと多く求めなければならない」と、役員の増員を求める意見が出、協議の結果、満場一致で評議員の補充選挙を実施することを決定しました。

役員補充を求める意見の趣旨は、①今後の校友会運営を活性化する上では、正副会長はじめ役員は一、二期生がほとんどという状態では、若い会員たちの意見を吸収するのが難しい。②校友会活動に協力してもらえる人材がまだ埋もれているハズ。③現理事の中で会議の出席率が悪く、協力責任を果たしていない者がいる——など。

理事全員が、この趣旨に賛成。校友会役員の選挙規程に基づき、評議員補充の選挙の公示を行うこととしました。③の現職の理事で会議などの出席率の悪い者については、評議員選挙終了後、新選出の評議員と一部入れ替えを行うことを承認。その判断は関謙二会長に一任しました。

また、十一月一日付の山桜会会報の中、同会決算書の注釈に〝会費未納〟として、校友会会員にかかる文言を記載していることに対し、「大学校友会としては事実無根のもの」として山桜会に申し入れることを確認。校友会役員と山桜会役員の両会ともに役員として氏名が上っている者に対しては、事情聴取した上で一方を辞任するよう求める方向を打ち出しました。

二十周年記念事業の報告と反省については、パーティーに卒業生の多くが集らなかったことが第一に掲げられました。これに対し、鶴毅・記念事業実行委員長は「当初、ホテルニューオータニなど、大学とは別の場所をパーティー会場にしたい旨、大学当局に申し入れたが、大学が来賓の移動処理問題に難点がある——ことなどを掲げ、首を縦に振らなかった」と報告。会員諸兄に魅力ある場所を提供できなかったことに対し、深謝の意を述べられました。

なお、パーティーに使用した追大二十年の歩みをまとめたスライド、テープ、写真類は本会事務局で大切に保管することを了承。ボードパネル、ステージ、ゲート、航空写真パネルは大学祭実行委員会に寄贈し、保管は学生課倉庫で行われている旨の報告もありました。

◎ **補充役員選出の手順は**

1、**大学校友会正会員**（大学卒業者と大学院修了者）の中から、各学部・各卒業年度・各クラス・ゼミの幹事や世話役の方を、また、ぜひ共、この人をという会員をご推薦下さい。

候補者には、クラブ、同好会などの会員（OB）の中から、御推薦されても差支えありません。

▽必らず、同封の推薦用紙を使い、封筒に入れて、お送り下さい。

2、推薦を受けた会員の方々の、氏名・出身学部・卒業年次等を次号の本会報に掲載して、会員全体にお知らせし、賛否を問うことにしています。（この方法は、前回、前々回と同じです）

3、次いで、新評議員会を開き、会則に従い理事を選出します。

4、補充役員が決定したら、次々号の本会報に掲載して、会員各位にお知らせ致します。

◎ **役員（評議員）候補の御推薦は**

62年1月15日〈消印有効〉

までに、本会あてにお送り下さい。

御注意

被推薦者——役員候補者——が、万一、本会終身会費未納者であった場合は無効とさせていただきます。

以上

追手門学院大学校友会
選挙管理委員会

住所変更その他のお知らせは　ぜひ　ハガキで

（前頁の五段目つづき）

所。何も感じないでいられるでしょうか。

創立20周年記念パーティーで、奥田順一学長が

「大学・学生・卒業生……全てが一丸となって本学発展の為に尽くしていけることを、ただただ願っているばかりです」

と、ご挨拶を下さった時、胸にこみあげてくる何かがありました。

そして今。ひとつの区切り、句読点としてのイベントが終った今こそ〝何か〟を始める時ではないでしょうか。

それぞれの立場での主張はもちろん必要です。そして、そこには葛藤や論議があることでしょう。ですが、そればかりでは〝何も〟始まらないと思います。それぞれの協力、個々の思いやりがあってこそ〝何か〟が生まれると信じています。それでこそ深い暖かみのある心の通ったものになると思うのです。

今回のパーティーでは、司会という貴重な経験をさせていただいたことに、深く感謝致しております。

また、式典の直前まで時間を忘れて東奔西走され、常に適切な助言を与えて下さいました顧問の佐藤良和先生に心からの感謝を捧げます。

私も、校友会会員のひとりとして、いつも心に母校を抱きながら、社会で勤めて参ります。

＝会員名簿の発行＝

遅れていて申し訳ありません。いま、最終校正しています。来春１月にはお手許に届くよう努力しています、暫くお待ち下さい。

初代学長天野利武先生顕彰

大学創立二十周年・記念碑

寄附者御芳名一覧

61年11月15日現在

記念碑建立に対して、ご寄附下さった方がた、お一人おひとりに御礼申し上げるべきでございますが、本報紙上に御芳名を発表させていただくことで、どうかご容赦下さい。有難うございました。

一期生の宮本輝（宮本正仁）さんの碑文

ともどもに／同じ青春の／丘に駆けし者／また再び／この丘に帰りて／集い合いぬ／われら再び生を受け／気品ある闘志秘めて／駆けゆかん／輝。

と、慈愛あるほほえみをたたえた、天野先生の胸像を抱く記念碑は、今冬枯れのキャンパスを照す陽ざしの中に、静かに立っています。

多くの方がたの善意で、碑建立をつつがなく終えることができましたが、目標額の一、〇〇〇万円には、まだ遠く、ここに改めて会員諸兄姉のご協力を、心よりお願いします。この碑が、母校の中で、将来も、永く愛されるよう望みながら、ご協力を重ねてお願いします。

会長　関　謙二

篤志家及び特別会員の分

口数・50音順

十万円（二十口）
東　國德様（学校法人理事）
赤松照夫様（学校法人元理事）
五万円（十口）
小杉三朗様（記念碑の制作者）
中山正暉様（学校法人理事）
水谷謙吾様（学校法人元評議員）
山本　巌様（学校法人元理事）
三万円（六口）
中村　秀様（元学長）
二万五千円（五口）
平下欣一様（名誉教授）
二万円（四口）
松﨑典一様（学校法人理事）
一万円（二口）
斎藤　昭様（学校法人理事）
柴岡浩平様（中高校長）
高田　馨様（教授）
名和俊彦様（講師）
浜守義久様（小学校長）
松山英夫様（学校法人理事）
宮本　弘様（職員）
山松質文様（名誉教授）
五千円（一口）
東村久男様（教授）
水谷卓史様（学校法人理事）
宮下茂喜様（職員）

校友会会員の分（敬称略）

口数・50音順

十万円（二十口）
佐藤良和（本会顧問・51院心）
五万円（十口）
関　謙二（本会会長・45済）
三万円（六口）
内田憲博（60心）
大橋陽一（本会副会長・46済）
鶴　毅（本会副会長・45済）
平野昌雄（本会副会長・45済）
二万五千円（五口）
口村一郎（本会常任理事・46心）
佐藤新二（本会常任理事・58東）
二万円（四口）
小坂井俊夫（本会理事・46済）
上田武司（本会理事・46英）
一万円（二口）
東　徳久（45済）
荒山惠一郎（49社）
荒山陽子（51英）
岡本昭子（56英）
嘉納　泉（49済）
川口　豊（50心）
小寺新吉（46済）
佐伯高嗣（59済）
新谷由貴代（60社）
寺田憲正（51済）
原田章子（50東）
藤原孝尚（58営）
藤本長利（51営）
酒造一史（61営）
宮本正仁（45英）
吉澤邦祠（45済）
吉田浩幸（50社）
吉野公彦（52営）
五千円（一口）
荒川典子（50心）
荒木史一（56営）
池田拓司（56済）
石原義久（48済）
伊勢浩二（52営）
伊藤弘子（61営）
伊藤良治（46済）
猪上　勇（61東）
今田定義（46済）
上村昌志（61営）
榎並秀樹（59済）
大久保稔彦（60済）
岡田能敬（46済）
奥村庄司（61社）
梶山真弓（60済）
川田英明（60営）
川本一美（56済）
菊地千代（61英）
木村光宏（53社）
小坂佳三（47心）
小坂真弓（47東）
合田昭男（49営）
坂本恵一（50済）
田中朋之（59営）
田辺利之（59済）
中山明子（49東）
長岡孝子（60英）
永谷憲史（47済）
長野三津子（47心）
西村栄子（48心）
西島佳代子（51英）
野口嘉博（47済）
橋本尚子（55心）
濱田祥子（51心）
蓮池滋代（50心）
久田恭子（50英）
平井克則（60済）
広部朝子（50心）
深川秀雄（59営）
藤本恭子（50社）
星野雄二（56営）
松尾進也（61営）
松本啓之（60済）
溝口　明（51心）
道盛正樹（48社）
三宅　泰（57英）
三宅晶代（61英）
宮前好嗣郎（49営）
室谷信一（61営）
望月　優（51済）
本山恵一（48済）
森本兼次（55済57院）
森本浩幸（60営）
安本幸義（57済）
山崎尚史（57済）
山本　修（51営）
山本哲哉（58心）
横部雅昭（51営）
吉岡恭子（47済）
吉岡正幸（47済）
米田誠良（61済）
一万円（二口）
菅原和子
五千円（一口）
井上正史
西谷　甲
藤原一郎
荒川泰臣
二千円
丸岡憲治

この部分には会員の住所変更等が掲載されていました。
個人情報の観点から、この縮刷版には掲載しておりません。

編集後記

◎……校友会会報第33号をようやく、みなさんのお手許にお届けすることができます。二十周年記念事業の報告や評議員の補充選挙の件など、一刻も早くお知らせすべく、十一月下旬の発行を目指して編集に取り組みましたが、とうとう十二月も中旬に入りました。みなさまにご迷惑をおかけしましたことを、冒頭におわび申し上げます。

加えて、会員名簿の発行も遅れています。何人かの会員の方から「まだ出来ませんか？」とお問い合わせの電話もいただき、首を長くしてお待ち下さっている会員の方々に申し訳なく思っています。しかし、我々とて、社会に出て仕事をもつ傍らで、善意の精神をフルに発揮し、校友会活動に取り組んでいることもご理解下さり、お許しの程をお願い申し上げます。

名簿を現在までに申し込まれた方は、約五百三十名にのぼっていますが、本音をいってこれでは大損です。一千冊をなんとか目標に、みなさんに一冊、申し込みをお願いしたいのです。事業を営んでおられる方は、広告のご掲載をよろしくご配慮下されば一層有難いのです。会員諸兄！　なんとか名簿を一冊、家庭に備えてやって下さい。できればクリスマスまでにお申し込み下さい。

◎……事務的な話ばかりで申訳けありません。会報編集する上で、事務局に「会員各位から原稿届いていますか？」とたずねる毎、「二、三本しか届いていませんね」というのが毎度の返事です。

校友会会報はみなさんのコミュニケーションづくりにもっと役立てて欲しいと思います。「○○君、大学卒業後、どうしていますか？　連絡して下さい」などと、個人への呼びかけで、会員間の消息の連絡を取り合わせて下さることなどは大歓迎です。私もそういう原稿が、追大卒業生のつながりを深めることになると信じています。

今回の編集に際しては、少しですが、顧問の佐藤良和先生、事務局の藤本博美姉がお手伝い下さる部分を少なくすることができました。住所変更の校正はみなさんの個人名に係るため、やはり、神経を使って校正していただいた藤本姉たちにはご苦労さまでした。

二十周年記念パーティーの写真もでき上っています。次々号ぐらいには一部掲載を考えています。

なお、今回は会報の紙質を中質に落としましたが、郵便重量を軽くし、郵送費節約するためで、不悪。

（佐藤　新二）